

学校名	酒田市立西荒瀬小学校	校長名	佐藤 孝雄
所在地	山形県酒田市大字宮海字新林660	TEL	0234-34-2004
		FAX	0234-33-7503

担当教諭 柿崎 玉樹 今野 わか

- 農業・農村体験学習を通じた「食」と「農」に関する教育活動  
 学校給食を通じた「食」と「農」に関する教育活動

#### 取組内容

##### (1) 活動テーマ

- ① 学校課題「エコジエントスクール西荒瀬」に基づき、環境に優しく活力ある人づくりの一貫として、食と農の体験学習を実践していく。
- ② 学区を流れる日向川に上る「鮭」の学習を学校経営の柱にして、伝統的な学習として全校生が関われる学習としていく。
- ③ 東京都北区とのふれあい農業体験や飼育栽培活動を通して、植物や生き物を愛する心、人への思いやりの心を育てる。

##### (2) 学年・学級・人数

第1学年	34名	
第2学年	37名	
第3学年	37名	
第4学年	23名	
第5学年	41名	
第6学年	39名	計211名

##### (3) 開始年度 平成12年度

##### (4) 活動の動機

西荒瀬地区は、西に日本海に面した山林あり、砂丘畑地あり水田あり、酒田市でも自然環境に恵まれた土地である。庄内銘柄米「ササニシキ」の生産地として、日向川を利用した鮭の孵化事業など、他に見られない学区である。

また、平成11年度に新校舎が完成し、平成13年度に体育館を含め竣工した本校は、エコジエントスクール構想の下に建築された学校である。これを機に地域環境を生かしてこれまで長年続けてきた農の学習も新たな視点で見直しを図られた。庄内平野の典型的な農業として、5年社会科の教科書に本地区が掲載されたことにより、東京都北区とのふれあい農業体験事業も平成12年度からスタートした。

昭和56年から始められた鮭の学習については、校舎建築時、本格的な鮭孵化施設を作り、西荒瀬小学校の特徴的教育活動としての位置づけがなされた。指導要領の改訂に伴って新設された総合的な学習に位置づけるなど、全校的な活動となっている。

##### (5) 活動の内容

###### ① 鮭に関する取組

###### ア、鮭研究室として

- ・飼育栽培、鮭の研究の責任者としては、鮭研究室員が当たる。  
例年、単なる飼育だけでなく、テーマを持った研究活動を展開している。  
具体的な活動計画は、別紙（鮭研究室経営計画）参照
- ・採卵から放流までの全行程に関わり活動を行う。また飼育には、全校生が関わり餌やりなどを行い、全校生で放流をする。
- ・指導者として、地元の鮭漁業生産組合の方々から随時指導に当たってもらっている。

###### イ、鮭の学習として

- ・6年生は、総合的な学習の時間に個人的なテーマを持って鮭の学習に取り組む。（40時間程度）
  - ・手軽にできる鮭の調理実習を行い、食材としての鮭について学習する。  
平成15年度の例－鮭の揚げボール、鮭のマリネ、鮭汁など
- ###### ② 稲作に関する取組（東京都北区の小学生とのふれあい農業体験－5年生）
- ・酒田市農政課の補助事業であり、西荒瀬コミュニティー振興会の依頼を受けて、5年生と5年PTAが中心になり、実践する。
  - ・交流先の小学校が決まった時からビデオレターや手紙などを通して交流を深め、秋の稲刈りを共同で行う。（手刈り、機械刈り）
  - ・教科書のおじさんから稲作についてのお話を聞き、稲刈りの指導をしていただく。
  - ・カントリーエレベーター見学、ハウス見学並びに野菜の収穫体験をする。
  - ・食事は新米を使い、また地区で採れた食材での料理で会食する。
  - ・5年生は、1年間の米作り学習のまとめとして、収穫感謝の餅つきを行う。
  - ・この事業は、地域をあげて行うことから、農業関係者諸団体・婦人部等の関係団体が協力している。

###### ③ 飼育栽培活動

- ・別紙の計画によって、各学年下記のような学級園作りを行い、食農教育の実践を進めている。  
1年－枝豆・さつまいも

- 2年ー枝豆・ミニトマト・なす・サツマイモ
- 3年ーさつまいも・ミニトマト・なす・かぼちゃ
- 4年ーへちま・えだまめ・とうもろこし
- 5年ーいんげん・トマト・ピーマン・スイカ
- 6年ーサツマイモ

・畑作りの指導には、祖父母の皆さんの協力が多い。収穫した食材は、調理実習され、植え付けから調理・試食までの一連の作業を通して生きる力を育てる活動となっている。

④公民館との連携での食農活動

・公民館との共催「ふるさと学習」の中で、世代間交流や郷土の良さを知る機会として、下記のように計画している。

- 別紙資料参照ー
- 7 川をたずねて三千里
  - 8 干し柿作り
  - 9 親と子の料理教室
  - 10 親子そば打ち工房

(6) 実施体制

- ・鮭の飼育栽培ー鮭研究室員（5・6年生）を中心とする全校生・全職員
  - ・稲作ー5年生
  - ・飼育栽培活動ー全学年
  - ・ふるさと学習ー希望者
- それぞれの担当はあるが、全てエコジェントスクール構想のもとでの教育活動なので、全職員体制である。

(7) 協力を得た機関・個人

- ・鮭漁業生産組合
- ・西荒瀬コミュニティー振興会並びに西荒瀬公民館
- ・西荒瀬小学校PTA
- ・酒田市農政課
- ・庄内みどり農業共同組合西荒瀬支店並びに女性部
- ・西荒瀬婦人会
- ・佐藤幸晴さん
- ・西荒瀬地区自治会長会
- ・児童の祖父母の皆さん

(8) その他（特徴的なこと）

本校は、エコジェントスクール構想で建築された学校である。その趣旨を生かし、エコ（環境に優しい・環境について学ぶ）、インテリジェント（地域と共に・地域への発信）を学校経営の柱としている。そのため、地域の環境を生かし、地域と連携できる活動を目指している。

子ども達の反応並びに取組の効果

- ①様々な動植物（命あるもの）の飼育栽培を通して、子ども達は常に動植物に親しんでいる。
- ②食と農を関連させた活動実践をすることにより、より深い理解を得ることができた。
- ③鮭の学習は、西荒瀬小学校の特徴的・伝統的活動として、子ども達も誇りを持って活動している。  
これまでは成育の研究が多かったが、食材としての鮭の学習をすることにより、鮭の理解の幅が広がってきている。
- ④地域の「ひと・もの・こと」との関わりの中で、地域の中の子ども達として認められ、明るく地域の人と交わるようになってきている。
- ⑤収穫量によっては、家庭に持ち帰ったり、学年を超えて分け合ったりするなど、優しい心を育てている。
- ⑥地域の指導者に感謝の会を計画したり、学習したことの発表会を計画したり、お世話になった御礼を地域に返すようになってきている。

今後の課題

- ①地域の中の学校として、より地域と深く関わるための「ひと・もの・こと」の発掘を今後も進めていきたい。
- ②様々な活動を通して、ものを育てる喜び・収穫の喜び・人との交流の喜びを実感することにより、たくましく生活する子を育てていきたい。
- ③食と農を関連させた学習を通して、地域環境に目を向け、安全で安心な生活の基礎を学びたい。
- ④学習したことを学校の中だけにとどめず、地域に返すようにし、共に成長していく集団でありたい。

添付資料

- ①鮭研究室
- ②総合的な学習の計画
- ③飼育栽培活動の計画
- ④さかた・きたくふれあい農業事業
- ⑤ふるさと学習